

闇バイト、危険知って

潮来高 行方署員が講話

夏休みを前に交流サイト（SNS）などを通じて「闇バイト」の危険性を知ってもらうため、潮来市須賀の県立潮来高（高野光章校長、生徒数399人）で17日、全校生徒を対象にした防犯講話が行われた。



闇バイトの危険性について学ぶ県立潮来高の生徒たち＝潮来市須賀

講師は行方警察署生活安全課の田山慎太郎巡查部長（29）が務め、会議室と各教室をオンラインでつないで実施。田山巡

査部長は、闇バイトについて「バイトではなく犯罪。報酬はもらえず、都合よく使われ切り捨てられる」と強調。応募の手口や、犯罪に担当した人が迎える結末などを説明し「求人や面接がSNSを通じてのみの場合、闇バイトの可能性が極めて高い」と警鐘を鳴らした。万が一関わってしまった場合は「すぐに警察や家族に相談して」と呼びかけた。普通科2年の内田優誠さん（16）は「闇バイトは自分だけでなく、周囲の人の人生を狂わせてしまうので、関わらないよう気を付ける」と話した。

若者視点でまちづくり

大学と連携 市の活性化策提案へ

潮来高

潮来市須賀の県立潮来高(高野光章校長)で、高校生と大学生が協力してまちづくりに
て、考える本年度の「高大連携事業」が始
まった。若者視点で市の現状や課題を分析し、
活性化策を提案する市の事業で、今年で7年
目となる。

同事業には、同校地域ビ
ジネス科2年の40人が参
加。初回は事前学習として

13日、麗沢大と筑波大学
院の学生計11人が、対面と
オンラインで助言した。
初めに、生徒らは8グル
ープに分かれ、観光振興や
特産品開発、新たな文化の
創出、公共交通など、それ



大学生の助言を聞きながら潮来市の
魅力などを考える高校生＝同市須賀

それが取り組むテーマを決
めた。

事前学習では、市の現状
を調べる手段として、国が
提供する地域経済分析シス
テム「REASAS(リーサ
ス)」が紹介された。日本
各地の人口や、経済活動な
どのデータが可視化できる
インターネットサービス
で、生徒は操作方法や活用
法を学んだ。

また、生徒から見た市の
現状は、情報を付箋に書い
て整理する「KJ法」で分
析。「自然が多い」「祭り
が盛ん」といった魅力のほ
か、「バスの本数が少ない」
「高齢化が進んでいる」な
どの課題を次々と書き込ん
だ。共有された情報は、共
通点やつながりを見つけて
まとめた。

生徒たちは、夏休み中も
取り組みを進め、9月上旬
に開くワークショップで、
提案を作成する。水辺の利
活用をテーマに選んだ糸賀
凜さん(17)は「みんなで意
見を出し合い、市について

いろいろと知ることができ
た。大学生のアドバイスが
的確で頼りになった」と話
した。

前年度は、同事業の提案
が地元企業を動かし、地域
の特産品を使った弁当が開
発された。本年度から担当
する同市地域おこし協力隊
の丸上理絵さん(41)は「高
校生にさまざまなことに興
味を持ってもらい、目標の
実現につなげてもらいた
い」と期待した。(藤崎徹)